

# 野田物語

棋士・中村勇太郎③

18年にわたり

後進の指導も



雨の江戸川堤防を散策する中村九段／「囲碁クラブ」昭和54年6月号から転載

中村勇太郎が囲碁と出会ったのは、大病を患った7歳ころで「体が弱かったものですから学校へも行けない。近所に碁の好きなご隠居さんがおられて遊びに行っているうち碁を覚えてね。そのご隠居さんはちょうど水戸黄門みたいな方でしたよ」と雑誌のインタビューで語っています。

めきめきと腕前を上げていった中村は、10歳のころには大人も歯がたたなくなり、プロ並みの腕前であった愛宕駅近くの茂木房五郎郎にも足繁く通い、さらに腕を磨いていきます。茂木は、体の弱かった中村を想い、人力車を迎えるに出したそうです。

大正12(1923)年9月1日、西光院の庫裡で行われた囲碁大会は、中村にとっても印象に残る大会のようでした。茂木の対局を観戦していた時、突然ラグラツと大きな揺れを感じ、中村は外へ飛び出したのですが、その時、灯籠がたそですが、その時、灯籠がいくつも倒れていたそうです。関東大震災でした。

翌年、17歳になると押上の親戚の家に下宿して、当時は銀座二丁目にあった日本棋院へ、毎日のようにアマチュアとして通います。やがて、日本棋院設立に尽力した岩佐銚八段(1878~1938)に

師事しましたが、特に教えを乞うことはなかったそうです。

昭和3(1928)年に中村は入段し、いよいよプロ棋士としての道を歩み始めます。同年二段になり、5年三段、8年四段、16年五段、25年六段、30年七段となりました。

特に、中村九段が囲碁界に残した大きな功績として、昭和30年から18年間、日本棋院の院生師範として、後進の指導にもあたったことです。指導を受けた棋士の中には、

大竹英雄名誉碁聖、二十四世本因坊秀芳(石田芳夫)、二十五世本因坊治勲(趙治勲)、武宮正樹九段、そして、門下には野田にゆかりの茅野直彦九段や、黒沢忠尚九段がいらっしやいます。

その後、中村は昭和40年に八段へ昇段し、56年3月には日本棋院史上、最年長で最高位の九段に昇りつめました。この時、中村は73歳でした。※文中敬称略(3月1日号へつづく)

【取材協力】(財)日本棋院出版部

【参考資料】「囲碁クラブ」昭和54年6月号、月刊「とも」昭和56年5月号

## 2月の休日当番医

休日当番医での診療時間

外科・産婦人科 = 9時~22時 (ただし16時~19時は除く)

内科 = 9時~16時 (19時~22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
1日(日)	門倉医院(☎7124-5311)	奥野循環器科クリニック(☎7123-7711)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
8日(日)	小張総合病院(☎7124-6666)	野田南部診療所(☎7121-0171)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
11日(水)	野田中央病院(☎7122-6161)	丹保医院(☎7129-3557)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
15日(日)	東葛クリニック野田(☎7124-3101)	新村医院(☎7138-2103)	小張総合病院(☎7124-6666)
22日(日)	須藤整形外科(☎7122-1221)	小澤医院(☎7122-3980)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認してください。

## 急病センター

☎7125-1188

▼内科(小児科) = 19時~22時(毎日)

▼歯科診療 = 9時~12時(休日)

▼暦の上でも立春を向え、各地から梅の開花だよりがちらほら聞かれる季節になり、春が近づいてきた感じがします▼また、花粉が飛散する時期にもなり、毎年悩まされている人には、大変苦痛な日々になります▼この4月には、関宿地域(関宿中央ターミナル近く)と七光台に、新たに民設民営の保育所が開所されます。入所受付期間は、他の施設も含めて2月10日までですので、希望者(今号11面か保育所一覧は12月15日号4面を参照)は早めに手続してください(ち)

### 編集後記

市の木



けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり